

プラスチック材質について

「棄」環境への影響

- ✓ ザルスタット製品に使用されているプラスチックは、「棄時に環境に影響を及ぼさない」といえません。
- ✓ 「棄」分場の空「中、土「、水に「影響を及ぼさずに埋め立て」ができます。
- ✓ PS, PP, PC, PEは「却」の「度を一定に保つだけでなく、燃料の無駄を極力省き「分場での「却」の際には有害物質の「生」を抑えることができます。

	Polystyrol	Polypropylen	Polycarbonat	Polyethylen
略「	PS	PP	PC	HD-PE High Density LD-PE Low Density
光「的」特「	透明 表面光「有 90%の光透過性 (400 – 800nm)	半透明 表面光「有	透明 88%の光透過性 (400 – 800 nm)	不透明 乳白色
機械的性質	絶「性が高い 引っ張り「度が高い 高熱に「い 「い遠心には不適	耐衝「性が高い 引っ張り「度が低い 高い剛性	機械的、光「的、電「的、熱に「してハイレペ ルのパフォーマンスで、オ「トクレープとY線に 耐性あり	粘着性があり比較的柔ら かく、クラック耐性あり 撥水性あり
オ「トクレープ	不可	121°C、20min以下 *3	121°C、20min以下 *3	不可
短時間での最高使用「度*1	60 – 70°C	100 – 110°C	115 – 125°C	HD-PE 70 – 80°C LD-PE 60 – 75°C
短時間での最高使用「度*1	75 – 80°C	120 – 140°C	125 – 140°C	HD-PE 90 – 120°C LD-PE 80 – 90°C
0°C以下での使用*2	不適	「件による *1	-80°Cまで	「件による*1
比重 g/cm³	1,05	0,90	1,19	HD-PE 0,95 LD-PE 0,92
可燃性	可燃	可燃	可燃	可燃
「火」度*1	300 – 400°C	300 – 360°C	380 – 450°C	350 – 360°C
吸水率	< 0,1%	< 0,1%	0,1 – 0,3%	< 0,1%
耐「品性	非酸化性の酸、アルカリ、アルコ「ル、塩溶液に耐性がある 燃料、エ「テル、「酸化」と芳香「を使用すると、クラックが「生 ずる	60°Cまでの無機塩、酸、有機塩などの水溶液に耐性があり、アルコ「ル、エステルおよびケトンも同「である。 芳香族、ハロゲン化二酸化炭素、濃硝酸、高「脂肪などの酸化物、オイル、ワックスを使用するとたわみが「生 ずる	高濃度の無機酸、多くの有機酸 (例:カルボン酸、オレイン酸、クエン酸など)の酸化および還元、「中性または酸性生理食塩水、油脂、飽和脂肪族、脂環式炭化水素とメタノ「ルを除くアルコ「ルに耐性がある PCはアルカリ溶液、アンモニアガス、及びアミンによって破「される PCは産業溶媒の多くに可溶であり、ベンゼン、アセトン、四塩化炭素などの他の有機化合物を使用すると膨潤する	HD-PEの耐「品性は、一般的にLD-PEよりも高い 水溶液、浸出液、アルコ「ル、油だけでなく、水と塩の溶液にも耐性がある 硝酸およびハロゲンの「な濃縮された酸化物には分解「果 がある
「棄	純炭化水素化合物であり、「却」時 にも有害物質を排出しない	純炭化水素化合物であり、「却」時 にも有害物質を排出しない	純炭化水素化合物であり、「却」件を整えれば、有害物質を排出しない	純炭化水素化合物であ り、「却」時にも有害物質を 排出しない

*1 プラスチック材料の特性に準ずる

*2 注意: プラスチックは0°C以下になると、衝「に「して脆くなります。氷点下で使用する場合には、製品サンプルを用いてお試しください。

*3 ただし、オ「トクレープは製品に何らかの影響を及ぼすことがあります。
使用前にお客「ご自身でテストされることをおおすすめします。また、スクリュ「キ
ャップ容器の場合、キャップを少しゆるめてください。

この表はガイドラインとして示したものであり、品質として保証するものではありません。